

乾燥に対する果樹の当面の管理について

平成30年11月27日
農業技術課

1 概況

今年は10月以降の降水量が少なく（10月の降水量：平年比22%程度。11月中旬迄の降水量：平年比43%程度）、11月22日に一次的な降雨があったものの、降水量も観測されない程度で乾燥傾向となっています（表1）。

この先もほぼ平年並みの降水量の見込みであり、乾燥状態が続くことが予想されますので、管理に留意して下さい。施肥後そのまま乾燥状態が続くと、肥料の分解と吸収が進まず、枝の充実が不十分になり、枝の枯れ込みの原因になる恐れがあります。

表1 降水量の推移（甲府）

旬	H30 降水量 (mm)	平年比 %
10/上	3.5	5
10/中	16	50
10/下	9	31
11/上	14.5	87
11/中	0.5	3

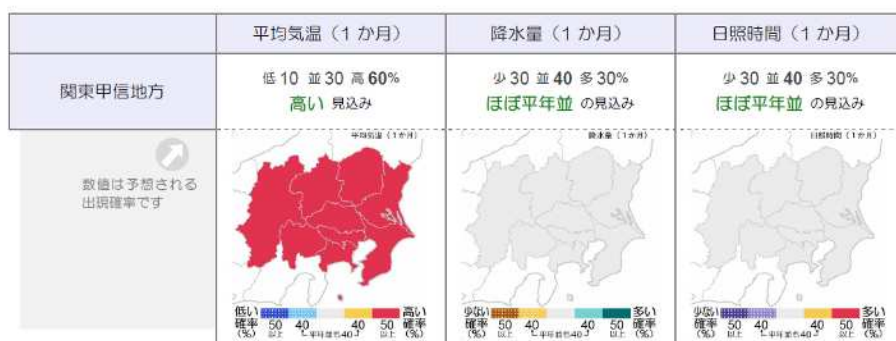
関東甲信地方の向こう1か月の気象の見通し（平成30年11月22日気象庁発表）

【予報のポイント（11月24日～12月23日）】

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みです。

12月の平年の降水量：32.1ミ、平年の日照時間：201.3時間（甲府）

1か月の平均気温・降水量・日照時間



2 技術対策

凍結層ができる前に10日間隔で20mm程度の灌水を行う。なお、かん水は昼間の暖かい時間帯に行う。

日陰になるほ場では、かん水した水がほ場外へ流失しないよう注意する。

剪定の時期になるが、今年は台風による早期落葉や9月が天候不順であった影響も心配されるため、若木及び登熟不良樹では、厳寒期を過ぎてから剪定を行う。

但し、ブドウでは雪害対策のため、年内中には荒切り剪定を行う。